

掘りたて

中国四川重慶自然博物館所蔵

掘りたて化石、
ほんもの恐竜の迫真力。

期日

平成13年9月13日(木)～10月21日(日)

会場

岡山市立オリエント美術館

恐竜展



掘りたて、ほんもの化石の迫力。

四川省はジュラ紀の地層が露出する世界でも屈指の恐竜化石の宝庫です。四川省の恐竜化石の特徴は、地層中での保存状態が飛び抜けて良いことです。発掘の最前線を担っている重慶自然博物館には、多数の恐竜骨格が展示されています。そして、そのほとんどが本物の化石で組み立てられています。これは世界にあまり例のないことです。

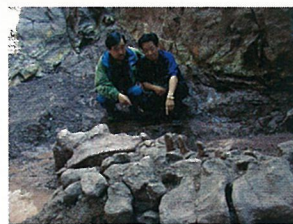
今回の恐竜展では「大きさ」を追い求めるのではなく「本物の恐竜を見てきたよ」と子供たちが言えるような高いクオリティーを求めた展示を展開してゆきます。

また、恐竜絶滅の原因を「掘りたて恐竜展」の監修者でもある平山廉氏は、気温や湿度、二酸化炭素濃度など長期間にわたる地球環境の変化にもあると推定しています。同時に現在、地球上で起きている数々の環境異変が将来の人類をはじめとする生態系に変化をもたらす事もあり得ると考えられます。

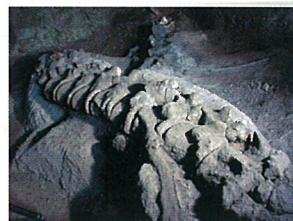
当イベントは恐竜が生きた太古の時代をのぞいてみるだけではありません。地球に残された「化石」という記憶を通して、自然と人間、生命と地球環境との関わりを考え、幕を開けたばかりの21世紀に人類が何を行うべきかについてメッセージをお伝えします。

発掘現場

企画協力: JEIコーポレーション



中国西南部、重慶市から400kmの雲南省に近い、石碑(せきひ)という町で、2000年7月から発掘が始まりました。そこに眠っていた恐竜は、ジュラ紀初期の、約1億9000万年前に存在した、原竜類(プロサウルポーター)。体長は1.3m位と推定され、当時は地上最大の生き物でした。ただし頭部は発見されていません。



パキブリュウロサウルス科 ケイチョウサウルス Keichousaurus

体長数センチの幼体から成体まで、多数の標本が知られている。
全長 25センチ前後



マメンチサウルス科 オメイサウルス Omeisaurus

本種の模式標本。原記載では頭骨や下顎、頸椎の一部とされている。実際にはほぼ完全な組み立て骨格(頸椎17: 頸椎の伸長の度合いは Mamenchisaurus constructus に類似した短いタイプであり、Omeisaurus tianfuensis や Mamenchisaurus hochuanensis とは異なる/ 胴椎12/ 仙椎4/ 尾椎50以上と思われる)であり、Dong(1992)にも“A complete sauropod specimen”との記述がある。頸肋骨は最長でも1メートル未満と思われる。
中国産の竜脚類では、最も保存の良い資料の一つとおもわれる。
全長 14メートル



シッタコサウルス科 シッタコサウルス Psittacosaurus

肋骨の間に砂利のような胃石が保存されている見事な資料である。
シッタコサウルスは白亜紀後期の角竜類の祖先形であり、アジアにおいてのみ発見されている。
かつてシッタコサウルスは白亜紀前期を代表する恐竜とされていたが、ジュラ紀の中国にも分布していた可能性が指摘されており、示準化石としての有効性には疑問が出されている。
全長 約1メートル

期日 平成13年
9月13日(木)~10月21日(日)

会場 岡山市立オリент美術館



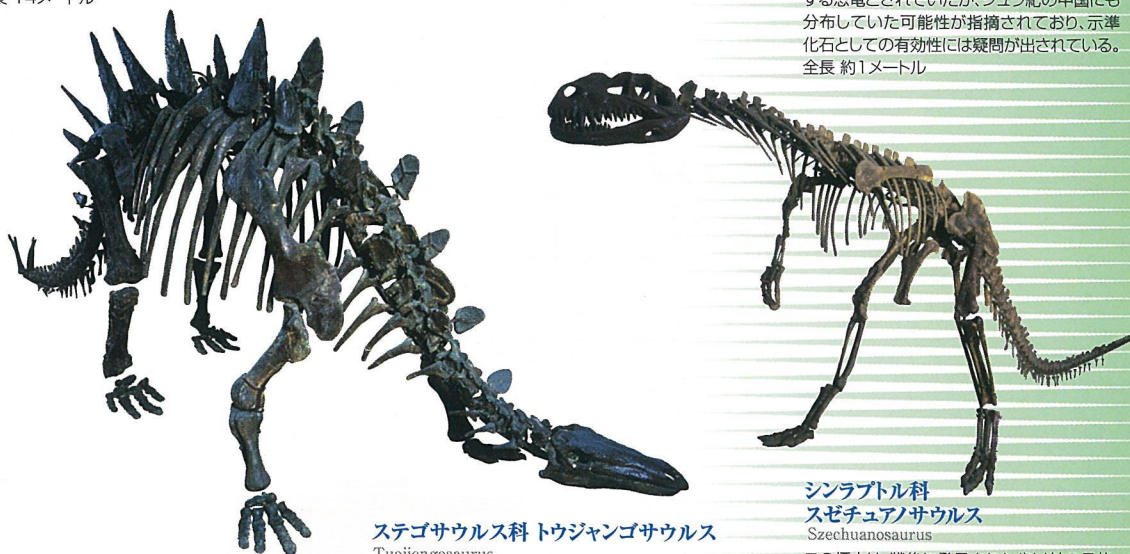
観覧料(税込)

一般	1,000円 (800円)
高・大学生	800円 (640円)
小・中学生	700円 (560円)
幼児	500円 (400円)

()内は20名以上の団体割引

前売り(一般のみ) 850円

※割引券使用の場合は当日券より100円引き



ステゴサウルス科 トウジャンゴサウルス Tuojiangosaurus

中国産の剣竜類でも最も完全な資料の一つである。
全長 6メートル

シンラプトル科 スゼチュアノサウルス Szechuanosaurus

この標本は、戦後に発見された歯以外の骨格を含む標本に基づいた標本骨格である。
全長 5メートル